

1 学校として目指す授業

持続可能な社会の創り手として主体的に考え判断し、他者と協働し、力強く表現・行動す力を育む授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・算数での平均正答率は、60.0%である。全国平均 56.4%を上回るものの、東京都(公立)の 63.0%には及ばない結果となった。C(変化と関係)領域の 41.7%であり、次に、D(データの活用)領域の 50.6%、B(図形)領域の 54.4%であり、いずれも、東京都の平均正答率と比べると下回っている。一方、C(測定)は、平均正答率は 87.5%と高く、全国平均と東京都平均を上回る結果となった。 ・国語は平均正答率は、63.0%で、全国平均 60.9%を上回るものの、東京都(公立)平均 65.0%には及ばない結果となった。「思考力・判断力・表現力」にあたる「書くこと」が 38.8%と低く、全国、東京都の結果を大きく下回る結果となった。一方、「話すこと・聞くこと」「読むこと」においては、いずれも全国・東京都を上回る結果となった。	家庭での体験的な活動や日常的な経験が減っており、幼少期の積み木遊びや立体迷路等の活動経験をしていない児童が増えている。そのため、算数での図形領域への正答が低くなったと考える。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

どの学年においても、授業内容が分かると回答している児童が多い。しかし、教科の学習が得意だと回答している児童は少なくなっている。このことから、学習に前向きに取り組んでいるものの、学習内容の理解が不十分な児童が多い傾向があることが考えられる。特に、学年が上がるにつれて、国語と社会で苦手意識の高い児童が多い。そのため、幅広い分野の情報や資料に触れさせ、「知識及び技能」を獲得できるようにする必要がある。さらに、それらを活かして文章を読み取り、他者に自分の考えを伝えていく学習活動を充実させていく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

多くの学年で、問題の状況を図表に示すことなど意味理解が弱い。また図形領域にも苦しさが見られる。形の名前を覚えるだけではなく、実際に描いたり面積や体積を求めたりする練習が大切である。低学年は整数の計算をしっかりとすることが大切である。また中・高学年は小数や分数の計算を正確に行うことがレベルアップになると推測される。

3 児童の学力・学習状況等の課題

国語科・算数科とともに、発展的な課題に対して深く考える力、粘り強さなどが課題である。基礎知識の定着を図るとともに応用力を付けていく必要がある。特に国語科では、漢字を正しく書くことや文章の構成力について課題がある。算数科では、割合や複合図形について理解が不十分な児童が多い。そこで、国語科では、読書活動を継続して行うことで、読解力や思考力を高めていく。清四漢検など漢字学習にも一層力を入れ、児童とともに既習漢字を実際の場面で活用する学習や場面を計画的に意図的に組み込む。算数科では、得点率が低い分野の復習を充実し、学習結果資料を配布して児童が自分の理解度を把握しやすくする。さらに、タブレット端末を活用し、児童が個々の課題に合わせた復習を行う機会を増やすことで、自主的に自己の弱い部分を克服していくことができるようにする。

4 学校全体の授業改善の視点

【育成したい力】自ら問いかけ、考え、判断し、表現・行動する力

【目指す授業像】「問題発見」「問題解決」「問題研究」の各場面を中心に、皆で考えることを愉しみ、考える力を伸ばす活動を通した深い学びのある授業

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・文字の習得、正確な読み取りができるよう、音読や読書活動、清四漢検を行い、言語力を高める。対話のよさやみんなで考える楽しさに気付けるように、ペアでの話し合い活動を行い、話す聞く力				・自分の考えを図、式、言葉で表現し、友達と伝え合う活動を取り入れることで考える力を伸ばす。 ・計算能力を高めるため、計算カードやドリルパークを活用し反復練習する。				・体験活動を多く取り入れ経験の中で気付きを促し、新たな問いをもたせる。 ・タブレットを活用し、自分の考えをまとめ、友達と比較したり意見交換したりして、学びを深める。		・自ら思いをもち、グループ活動を取り入れる中で、それらを表現できるよう話し合ったり聴き合ったりして表現方法を増やす。 ・めあてを明確に示し、1時間の中での変容を振り返る時間を設ける。		ほめる、認め合う等、伝え合う場を意図的に設定し、自信をもって表現できる力を高める。				・児童自らめあてを立て、易しい運動遊びを楽しく行い、運動の基礎となる動きを身に付ける。 ・教師による声掛けや児童同士の交流を通して活動を振り返り、ルールを守り、仲良く運動				・自分事として考えを深められるように、具体物や絵の提示、動作化を行い教材理解を高める。友達と意見交流をしたり、ワークシートを活用したりして、内面的資質を高める。	
中学年	・課題を自ら見付け、根拠を基に考えを交流し、多様な見方や考え方を深める授業を展開する。 ・読む・書く・話す活動を関連付け、自らの考えを表現し伝え合う学びを充実させる。		・地域や社会の課題を見出し、資料を活用して多面的に考え判断する学習を充実させる。 ・調べたことを根拠に示して表現し、社会との関わりを考え行動につなげる学びを展開する。		・問題場面から疑問を見出し、見通しをもって解決方法を考え説明する学習を充実させる。 ・解決方法を比較・検討し、数学的な見方・考え方を働かせて学びを深める授業を行う。		・自然事象から問いを見付け、予想、実験・考察を通して科学的に探究する学習を進める。 ・観察や実験結果を根拠に考えを表現し、協働的に課題を解決する力を育成する。				・自らの課題を見付け、グループ活動を取り入れる中で、教え合い、解決できるような活動にする。 ・めあてを明確に示し、1時間の中での変容を振り返る時間を設ける。		用具や材料を試行錯誤し扱い、思いに合う表現ができる。児童が鑑賞し合い表現力を高めることができる。				・基本的な動きをもとに、児童が体の動かし方を視覚的に考えて活動できるようにICTを活用して振り返る時間をつくる。 ・めあてを明確に示し、学び合いの時間を設け、児童同士でアドバイスし合える環境をつくる。		・具体的な場面を設定したり、視覚教材を活用したりして、状況理解を深める。 ・体験的な言語活動を通して英語を用いたコミュニケーションの楽しさを味わい、異文化に慣れ親しむことができる。		・グループ活動を取り入れ、考え・議論し合う活動にする。 ・振り返りノートを活用しながら、日常生活へのフィードバックを行う。	
高学年	・対話的な学びによって構築した自分の考えを書く活動を意図的に設定する。		「資料に書いてあること（事実）」とそこから推測できること（考え）を色分けして整理し、根拠をもとに思考する力を育てる。		・ベージャックドリルを活用し、既習の定着と習熟を図る。 ・数量関係、図形の学習を重点化し指導を行い、自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたりすることで多様な考えに触れさせる。		「知識を教える授業」から「子供が自然の事象を科学的に探究する授業」へと重心を移す。そのために、「子供の疑問から始める」「予想に根拠をもたせる」「話し合いで考えを深める」「結果と考察を区別する」ことを大切にする。				・自らの意図をもとに課題設定をし、グループ活動を取り入れる中で教え合い、解決できるよう表現を高める」 ・めあてを明確に示し、1時間の中での変容を振り返る時間を設ける。		今まで学習してきたことを生かして発想を広げ表現することができる。児童が互いに鑑賞し、他者の考えも生かして表現することができる。		単なる知識の講義にとどめず、実際に手を動かす実習やシミュレーションを先行・導入する。学校での体験を「家でもやってみる」ミニ課題へつなげ、身近な生活の中で繰り返す実践・定着を図る。		・持久力や俊敏性など基礎体力の向上を目指す。 ・体育科での運動量を最大限確保するだけでなく、各学年で学習外の場面(休み時間でのクラス活動など)へ広げ、運動に関する活動を行う。		・学習到達目標と評価基準を提示し、児童が課題意識や見通しをもって自律的に取り組めるようにする。 ・「だれに・何を・なぜ伝えるか」という目的や必然性のある場面を設定し、自分の考えや気持ちを表現する言語活動を行う。		児童が道徳的な価値に気付き、自分の生き方に触れられるように時間配分を綿密に練る。また、導入と自己の振り返りの時間を重視し、アンケートの活用など工夫した授業展開を行う。	